琉球大学学術リポジトリ

第6回観光科学研究会：観光科学の特殊性と普遍性(1)

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学大学院観光科学研究科
	公開日: 2016-02-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 松本, 晶子
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002008215

観光科学　第 7 号　（平成 27 年 12 月）　p.40
Journal of Tourism Sciences. Vol.7 (December.2015)

【特集 1】　第 6 回観光科学研究会

――観光科学の特殊性と普遍性(1)――

概要

観光学は、観光に関する諸事象を研究する学際的学問である。観光研究の歴史は浅く、西欧では第一次、第二次世界大戦の間にはじまった。日本で観光研究が広がったのは、より遅く 2000 年代である。2003 年の「観光立国宣言」で観光が国家的課題として明確化され、2006 年の「観光立国推進基本法」で 21 世紀の重要施策として位置づけられ、2008 年には観光庁が設立された。その背景には、日本の社会が人口減少に直面しており、ツーリズムが地域再生の鍵ととらえられたことがある。そして、ツーリズムを学ぶ人口の増加を予測して、大学に観光関連学部・学科が設置され、観光を学問的にとらえることが必要となっている。

だが、否定的に、観光は学問たりえるのかという意見もある。個々の観光事象・観光事例はその背景が多様すぎて、一般化することが困難だということがあったり、関係者の専門領域のちがいは用語ひとつから相互理解を必要としてきたためである。このような背景をふまえながら、本研究科では 2014 年度から 2 年間にわたって、観光を科学的に説明するという視点にたち、既存の学問分野へアプローチを始めることとした。観光学は学際領域であるからこそ、関連分野を包括して新たな学問分野を構築できる可能性に溢れている。今後の一連の研究会を通じて、われわれは広い枠組みの耐久性のある学問へ観光学を昇華していくことを目的とする。

このたびの観光科学研究会はその第 1 回目として、観光学から「社会学」と「ビジネス」分野へ意欲的に臨んだ発表を、原稿に描き下ろしたものである。観光科学研究科の教員による発表のあとには、それぞれに関連分野の他学部・他研究科の教員からコメントをいただいたものを収録している。これらの先生方のご協力に感謝申し上げます。

松本　晶子

日時 : 2015 年 3 月 18 日（水）　10:00～12:00
場所 : 琉球大学　文系総合棟　404 教室
内容 :

① 観光と公共性の社会学――観光社会学の現代的再定位――
越智　正樹（琉球大学大学院観光科学研究科・准教授）

② 越智報告へのコメント
野入　直美（琉球大学法文学部人間科学科社会学専攻・准教授）

③ メディカルツーリズム再論
片岡　英尋（琉球大学大学院観光科学研究科・准教授）

④ 片岡報告へのコメント
堀　勝彦（琉球大学法文学部総合社会システム学科経済学専攻 准教授）